

1. 評価結果概要表

平成 20年 3月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	2072100379
法人名	社会福祉法人 敬老園
事業所名	かるいざわ敬老園
所在地	北佐久郡軽井沢町追分1436番地 (電話) 0267-44-1165

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年2月26日	評価確定日	平成20年5月19日

【情報提供票より】(19年 12月 14日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	6人 常勤6人 非常勤0人 常勤換算6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000円	その他の経費(月額)	29,000円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200円

(4) 利用者の概要 (12月 14日 現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1		要介護2			
要介護3	3名	要介護4		5名	
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 84.8歳	最低	75歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	軽井沢病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは避暑地で有名な長野県軽井沢町、「しなの追分け馬子唄道中」の時代祭でも有名な追分宿にある。軽井沢町には特養がなかったため、平成14年に社会福祉法人敬老園が、かるいざわ敬老園として特別養護老人ホーム・短期入所・デイサービス・居宅介護支援センター・グループホームの複合施設を開設した。法人内にグループホームがいくつもあるため、ホーム同士の勉強会・法人全体の勉強会など開かれており、常にサービスの質の向上はもとより、ターミナルケアの取り組みも行われている。複合施設のため、週2回医師が施設に訪問するなど、医療との連携も充分である。ホームの夜勤は一人体制でも、施設の中に当直が必ず居るため、緊急時には職員始め利用者・家族も安心できるホームといえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、利用者の権利と義務を分かりやすく掲げることであったが、理念等も分かりやすい内容で、見やすい位置にかかげられていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価をまとめたことにより、一人ひとりの気づきにもなったことで、今後のケアの向上に期待される。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年の台風のような災害時には、施設の利用者はもちろん、利用者以外の独居の方も、避難場所としての受け入れに期待されていることなど、地域密着型の役割と言える。地元の方との意見交換の場として貴重な会議であり、更に地域と密度の濃い対話をされることに期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎日面会される家族が居るくらい面会の頻度が高く、職員と気軽に相談出来る関係を築いていることが、調査当日に家族からも伺うことが出来た。重度の機能低下された利用者も増えており、グループホームと言うより特養とを感じる面もあるが、本人・家族が住み慣れたお部屋で生活を希望される為、今後の不安解消への対応として、退院されて重度になっても出来る範囲であれば受け入れられている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地元の追分け道中の行事に職員はじめ参加したり、地域のゴミ拾いに参加するなど、地域との交流を積極的に行っている。昨年の避難訓練は、消防署と地元の消防団36名の協力のもとで行われ、車いすの避難方法を体験して頂けたことは、今後の連携についての確認が出来たと言える。今後も更に交流を深められることに期待したい。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の笑顔を大切に、自立した生活が送れるように支援していくことを理念とし、日々取り組んでいる。	○	住み慣れた地域での生活の支援として、地域密着型サービスであることを組み込んだ理念の見直しが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回夜勤者以外の全員による処遇会議で、理念に沿ったケアの確認。朝のミーティング時に理念の復唱により共有を図り、日々理念の実践に向けたケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の小学生が訪問し、歌を歌ってくれたり、餅つきには60人ほど見える。月に1回三味線の演奏に来てくださるボランティアさんもいる。デイサービスも併設されており、デイサービス利用のお友達と会うなど地元の方との交流も盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価も理解されており、自己評価を職員全員でまとめたことで、ケアの改善点が改めて確認され、取り組みに活かされている。		

グループホームかるいざわ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開かれており、ホームの取り組みの説明が行われ、地域との連携などの意見交換がされ、災害対策訓練には地域の消防団が36名参加いただけただけなことなど、車いす利用者が居る中で、心強いと言える。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネ講習会に参加するなどし、増えている機能低下の利用者のため、常に連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人の広報誌を年4回、グループホーム便りを年4回発行している。また、毎月請求書の郵送時には、担当職員がコメントを入れるなどして日頃の様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会が多いので、面会時に気軽に声掛けをし、言いやすい雰囲気作りに心がけ意見交換を行い、ケアの向上に活かしている。また、面会の少ない方には、電話や手紙で訪問を促している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にしている。利用者一人ひとりを担当制にしており、毎年担当者を変え、利用者や馴染みの関係を築き、利用者全員を全職員が充分把握できるようにしている。		

グループホームかるいざわ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	複合施設であるため、施設内研修が月1回、法人全体の研修は年1回開いている。また、レベルに応じて外部研修に参加するよう主任から声掛けをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームの代表が2ヶ月に1回勉強会を開き、情報交換をしている。近隣のグループホームとの勉強会に1回参加した。	○	近隣のグループホームの勉強会に1回参加したに留まっている。相互評価事業への参加も検討中であり、ネットワークづくりの為に積極的に参加されることが望ましい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	特養・デイサービス・グループホームの複合施設の為、デイサービスにいつでも行ける状態であり、出向いた時には友達と会ったり、行事に参加したり、また、家族の面会が頻繁なので、家族と相談するなど馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の経験から、先輩として様々な場面に於いて教えていただきながら、生活に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夏はプランターで野菜作り、施設内のデイサービスに参加、苺狩り、クリスマスの頃にイルミネーション見学など、希望に添えるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員の意見・家族・併設施設の看護師・栄養士からの意見と合わせ、毎月の処遇会議で職員全員により検討し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月を目安に見直しをしている。状態に変化が生じた時には、その都度見直されている。	○	状態の変化が無い場合でも、3ヶ月を目安に介護計画の見直しをされることが望ましい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特養・デイサービス・グループホームの複合施設の為、デイサービスに参加したり、機能低下し歩行困難な利用者もいるため、週1回作業療法士による訓練も行なわれている。リハビリもお願い出来るなどの連携も取れている。		

グループホームかるいざわ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の特養から週2回定期的に医師の往診があり、その時にグループホームも状態に応じて診察して頂いている。急変時には特養の看護師の協力も得られる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護の指針が作成されており、状態変化に応じて本人や家族の希望を聞きながら、かかりつけ医も含めその都度検討している。車いすの利用者も何名か居るが、家族や本人の希望もあり、ホームで生活されている。状態により併設の特養の紹介など、希望に添った支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの特徴を十分に把握され、プライバシーに配慮した言葉掛けが伺えた。トラブル回避と、誇りやプライバシーを尊重したテーブルの配置がされていた。個人情報の取り扱いについても、充分配慮されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	併設のデイサービスに参加したり、その日の体調に配慮しながら、一人ひとりの希望を聞きながら支援をしている。		

グループホームかるいざわ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの体調に合わせた調理工夫を行い、職員は支援の必要な方の隣でさりげなく介助しながら食事されたり、食事が楽しめるようテーブル配置も工夫されていた。機能低下がかなり進んでいるため、食器ふきなど出来ることが限られてはいるが、皆さんで楽しく会話しながら行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	鹿教湯温泉の湯を運んで来られ、ホームで温泉を味わう事が出来る。季節感を感じるように、菖蒲湯・ユズ湯などの工夫も行い、入浴を楽しめるよう支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	複合施設としての催しもあり、四季折々の楽しみごとが盛んである。また、生活歴から、洗濯たたみ・縫い物など経験を活かし、日々の生活に力量が発揮出来るよう工夫されている。歌のビデオを観ながらカラオケをされたり、楽しみにされていることが伺えた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じて、お花見・苺狩り・紅葉狩り・職員も参加する馬子唄道中のお祭りの見学や、クリスマスのイルミネーション見学など、外出の計画が立てられたり、複合施設としての催しもあり、ホームからの外出が盛んである。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵を掛けていない。入り口は複合施設のロビーに繋がっており、自由に過ごすことが出来るようになっている。		

グループホームかるいざわ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行われている。昨年の避難訓練では、地元の消防署・消防団と初めて合同で行われ、車いすの押し方など体験して頂き、今後協力が得られることが確認できた。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1000ccを目安に観察チェックをしている。水分摂取に困難な場合には、水分ゼリーなどで対応している。栄養については、法人の管理栄養士によるメニューにより調理を行ったり、同じ食材で工夫もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が殆どの時間を過ごしている共用スペースのリビングは広く、軽井沢らしい木立が見えるなどすがすがしさが感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みに制限もなく、自由に使い慣れた筆筒など持ち込まれ、家族と相談しながら居心地の良いお部屋づくりがされていた。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。